

風しん(麻しん風しん混合ワクチン)の予防接種について

予防接種の受け方

風しんの第5期定期接種は、『麻しん風しん混合(MR)ワクチン』による接種となります。

予防接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱している方(通常37.5℃以上の場合)
- ② 重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ 麻しん風しん混合ワクチンの接種液に含まれる成分で、アナフィラキシー(通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のこと)を起こしたことがあることが明らかな方
- ④ 免疫機能に異常がある方・免疫抑制をおこす治療を受けている方
- ⑤ その他、医師が不適当な状態と判断された方

予防接種を受けた後の注意

- ① 予防接種を受けたあと30分程度は、病院にいるなどして様子を観察し、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。
- ② 接種後、4週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差支えありませんが、接種部位をこすらないようにしましょう。
- ④ 当日は激しい運動は避けましょう。
- ⑤ 他の予防接種を受ける場合は27日以上あけてください。
- ⑥ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

★風しん(麻しん風しん混合ワクチン)の副反応

副反応の主なものは、接種後5～14日に発現のピークがある発熱と発疹です。

接種直後から数日中に過敏症状と考えられる発熱、発疹、かゆみなどが出るがありますが、通常1～3日で治ります。アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎及びけいれんなどの副反応がまれに生じる可能性があります。

★予防接種健康被害救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく健康被害救済の給付を受けることができます。ただし、国の審査会にて審議し、その健康被害が予防接種によるものと認定されることが必要です。

風しんとは	麻しん(はしか)とは
<p>風しんウイルスの飛沫(咳やくしゃみなど)感染によって起こり、軽い風邪症状で始まり発疹、発熱、後頸部リンパ節の腫れなどがみられます。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」と呼ばれます。大人になってかかると、高熱や発疹が長く続いたり、関節痛が生じたりするなど、症状が重くなる場合があります。また、妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風しん症候群(心臓病、白内障、聴力障がいなどの病気)の子どもが生まれる可能性が高くなります。</p>	<p>麻しんウイルスの空気感染・飛沫(咳やくしゃみなど)感染・接触感染によって起こります。感染後、無症状の時期(潜伏期間)が約10～12日続き、症状が出始めます。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時熱が下がりがけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発疹が出ます。高熱は3～4日で解熱し次第に発疹も消失しますが、しばらく色素沈着が残ります。主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。麻しんにかかると数年から十数年経過した後に亜急性硬化性全脳炎という重い脳炎を発症することがあります。麻しんにかかった人のうち数千人に1人の割合で死亡することがあります。</p>

【お問い合わせは、お住まいの市担当課へ】

福津市 いきいき健康課
(ふくとびあ)
TEL 0940-43-8115

宗像市 健康課
TEL 0940-36-1187